

チェックリスト付！

AWS開発/移行前に 知っておきたい 50のリスク



Index

目次

【チェックリスト付！】AWS開発/移行前に知っておきたい50のリスク

01 AWS移行の3ステップ

02 Phase.Assess

Assess（評価）フェーズの概要と想定リスク

Assess（評価）フェーズのリスク対策

03 Phase.Mobilize

Mobilize（動員）フェーズの概要と想定リスク

Mobilize（動員）フェーズのリスク対策

04 Phase. Migrate and Modernize

Migrate and Modernize（移行と最適化）フェーズの概要と注意すべき潜在リスク

Migrate and Modernize（移行と最適化）フェーズのリスク対策

05 【巻末付録】リスク対策チェックリスト

大規模システムからAWSへ移行する際の3つのフェーズ

公式ドキュメントではAssess（評価）→ Mobilize（動員）→ Migrate and modernize（移行と最適化）の3フェーズが推奨されている。

01. Assess

| 評価

移行にあたり、現在の状況を
整理・評価するフェーズ

- クラウド移行の目標の確認
- システムの現状把握
- 利害関係者との合意形成

などを行い、クラウド移行を行うために何を行
べきかを特定します。

02. Mobilize

| 動員

Assessをもとに移行を進める計画や
体制を整えるフェーズ

- 移行コストの見積もり
- 移行計画の策定
- 移行時のガバナンスやリスク管理体制の確定
- 運用オペレーションの確認と改善
- 移行チームの設計

などを行います。

03. Migrate and Modernize

| 移行と最適化

実際にシステムのクラウド移行と
システムの最適化を行うフェーズ

移行作業はさらに作業手順書などを整備する
Initialize（初期化）とImplement（実行）に分け
られます。

移行完了後、パフォーマンスやコストをモニタリ
ングしながら、システムの最適化（Modernize）
を行います。



次章からリスクと対策を各フェーズごとにチェック！

Phase.

Assess

Assess（評価）フェーズの概要と想定リスク

Assess（評価）フェーズのリスク対策



Assess (評価) フェーズの概要

①「クラウド移行によって何を達成するのか？」②「自社のクラウド移行がどの程度進んでいるのか？」の2点を明確にし、行動計画を立てる

6つの視点からビジネスの現状を評価

01.Business



- ・長期的な目標のためにクラウドを活用しているか？
- ・クラウドを活用した製品開発は行っているか？

02.People



- ・組織文化を更新する計画はあるか？
- ・デジタルに精通した人材の採用・育成はできているか？

03.Governance



- ・クラウドにかかるコストの計画・測定・最適化の体制があるか？
- ・データの権限は適切か？

04.Platform



- ・クラウド環境のガイドラインなどを定めているか？
- ・データベースおよび分析のアーキテクチャは適切か？

05.Security



- ・セキュリティポリシー等の開発・運用体制はあるか？
- ・IDと権限管理を効果的に行えているか？

06.Operations



- ・イベントの検出や影響の評価体制はできているか？
- ・インシデント時の復旧体制は整っているか？

Assess（評価）フェーズの注意すべき潜在リスク

①「クラウド移行によって何を達成するのか？」②「自社のクラウド移行がどの程度進んでいるのか？」の2点を明確にし、行動計画を立てる

Assessが不十分な場合のリスク例

システム基盤の
整理不足

1. 移行対象リソースの網羅的なリストがない
2. リソースの構成やバージョン管理記録を統一管理できていない
3. アプリケーション間の依存関係を可視化できていない
4. 非公式なリソース（シャドーIT）を把握できていない
5. システム障害の統一された記録がない
6. イベント監視や分析の自動化ができていない

認識やスキルの
ギャップ

7. 開発チームが移行に関する内容を正確に認識していない
8. クラウド移行や運用に関する知識をチームが持っていない
9. ビジネスサイドとの認識合わせができていない
10. 運用サイドがオペレーションの変更を認識していない
11. ステークホルダーとの計画の目線合わせができていない

計画の不備

12. クラウド移行による投資対効果（ROI）を定義していない
13. クラウド移行前後の維持コストの試算と比較をしていない
14. 移行チーム（CcoE）の編成ができていない
15. 移行を実施する範囲や優先順位が定義できていない
16. コンプライアンスやガバナンス体制を整えていない

移行作業
の遅延

計画の変更

移行後の
トラブル



Assessフェーズでのリスク対策

MRA (Migration Readiness Assessment) と呼ばれるプロセスを用いて、評価の抜け漏れや認識ズレを防ぐ

Step.01

関係者との合意形成と会議スケジュールの調整

プロジェクト移行の関係者へスケジュール調整を行う。会議には関係者全員の参加が推奨されるため、**2~3週間前からの着手推奨**。

【推奨される参加メンバーの例】

- CEO
- CTO
- CIO
- 事業部の責任者
- 財務担当者
- セキュリティチーム責任者
- ネットワーク責任者
- アプリケーションオーナー
- 開発チーム責任者
- インフラ責任者
- 運用責任者

Step.02

会議によって目的や課題を明確化する

4~6時間の会議を行い、クラウド移行の目的と、組織の移行準備の状況を確認。クラウド戦略の動機・目的を共有後、前出の6つの観点からディスカッションを行う。

【ディスカッション項目の例】

- コストの見積もり
- 移行による短期/長期目標の定義と指標
- ガバナンス・コンプライアンス状況
- 育成・組織体制の状況
- インフラ、アプリケーションの状況
- 運用プロセスやツール使用状況
- セキュリティ対策の状況

AWS Cloud Adoption Readiness

などの評価ツールも利用可能

Step.03

会議の内容を分析しアクションを設定する

会議のファシリテーターが会議の内容をまとめ、クラウド移行に際しての組織の「強み」と「弱み」を特定し、足りない部分を埋めるための作業範囲記述書（SoW）を作成する

【分析項目の例】

- AWS提供の6つの観点毎の組織成熟度
- 会議で共通認識となった強みの確認
- 議論で繰り返し指摘された課題の確認
- 各部署から提供された定量データ
- 低リスク、または移行が容易なアプリケーションの洗い出し

各アクションには担当者と期日を明記し、進捗の管理を行う

Step.04

報告会で合意を取り準備に向けて動く

1時間程度のデブリーフィング（報告会）を開催し、アクションプランの共有とレビューを行う。合意形成が改めて行われたあとに、次のMobilize（動員）ステップに進む

【共有項目の例】

- クラウド移行の目的と成果の再共有
- 全体の概要の説明
- 6つの評価領域それぞれの概要
- 組織の現状に関する分析結果
- 移行体制準備の為のアクションプラン

レビュー後の内容は、必要に応じてより広範なステークホルダーにも共有を行う

Phase.

Mobilize

Mobilize（動員）フェーズの概要と想定リスク

Mobilize（動員）フェーズのリスク対策



Mobilize（動員）フェーズの概要

Assessフェーズでの計画を基に、本格的な移行に向けた基盤を整備し、本格的な移行に備える

2つの基盤を社内に構築

組織体制

01 移行戦略

- コストや活用例の具体化
- 移行方式（7R）の選定



02 人材育成

- アジャイル開発体制を整備
- AWSツールやスキルの習熟



03 運用準備

- プレイブック(手順書)作成
- 既存のSLAやOLAの改善



AWS環境

01 AWS基盤整備

- AWSランディングゾーン（開発基盤）の構築



02 リスク管理

- セキュリティ対策の実装
- 権限・ネットワーク構成設定



03 移行準備

- 移行アプリケーションの選定
- パイロット移行の実施



Mobilize（動員）フェーズの注意すべき潜在リスク

Assessフェーズでの計画を基に、本格的な移行に向けた基盤を整備し、本格的な移行に備える

Mobilizeが不十分な場合のリスク例

計画の詳細化における抜け漏れ

17. 維持コストやサービス利用料のコスト試算の見落とし
18. 移行期間中の二重コストの見落とし
19. 移行後のオンプレシステムの償却コストの楽観視
20. ビジネス効果が定性指標のみで定量化できていない
21. 事業継続性・災害対策の定量化が充分でない
22. 市場の変化やシステムのサポート期限等の外部要因の見落とし

開発環境の不備

23. 移行環境の境界や移行データの範囲が明文化されていない
24. 環境に応じたAWSアカウントの使い分けができていない
25. ネットワーク構成がオンプレ環境との競合を考慮していない
26. セキュリティ定義で必要なポートやプロトコルを許可していない
27. コスト管理の設定が適切になされていない
28. コンプライアンス要件に即したガードレール設定がされていない
29. インフラ管理を設定できておらず、自動化がなされていない

セキュリティ・コンプライアンスの不備

30. サービスコントロールポリシー（SCP）の構成不備
31. 権限やロールが適切な粒度・権限で設定されていない
32. データの機密度の分類が正確になされていない
33. 監視ログファイルの保存期間の設定に不備がある
34. セキュリティに関する運用手順が整備されていない
35. 脆弱性パッチの適用などの作業が自動化されていない

コストの
増大

パフォーマンス
低下

インシデント
発生



Mobilizeフェーズでのリスク対策

計画の詳細化したのちにパイロット移行を行い、実践経験とオペレーションの改善を抜け漏れなく行う

コスト・期間・効果の見積りを正確に行う

コスト

- 移行前・移行後のコスト試算と比較
- 移行に際してかかるコストの試算

効果

- リードタイム/ダウンタイム改善の試算
- 技術導入コスト削減/収益性性増加の試算

期間

- 重要度やシステム依存関係の把握
- アプリケーションごとの移行戦略(7R)決定
 - リファクタやリホスト等、互換性や重要度に応じて適切な戦略を選定
- 移行の優先順位付け（ウェーブ）を行う
- 複数年にわたる計画を策定する

小規模な移行を行いつつ基盤の環境やフローを構築

移行するアプリケーションの選定

- 小規模かつ重要度の低いものを選定
- 移行チーム（CCoE）の編成

AWSランディングゾーンの構築

- AWS Control Towerも活用し構築
- AWS Organizations でアカウント管理

基本的なセキュリティ・ガバナンスの設計

- 権限・データ周りの適切な設計
- セキュリティ、監査ログ等を設定

パイロット移行の実施

- 小規模かつ移行が容易なものから実施
- 移行プロセスやガバナンス等の確認

オペレーションの改善サイクルを構築する

既存の運用体制のレビュー

- ITサービス管理（ITSM）の諸定義
- 問合せ対応の体制や運用監視体制の定義
- BCP/DR計画のレビューと修正
- 移行中のオンプレ運用への影響を試算

運用体制の改善

- SLAおよびOLAの強化
- バックアップ・監視・デプロイ等のランプバックによる標準化・自動化
- 運用プレイブック（手順書）の作成
- 事業継続計画（BCR）の改善
- 災害復旧（DR）の改善

Phase.

Migrate and Modernize

Migrate and Modernize (移行と最適化) フェーズの概要と注意すべき潜在リスク

Migrate and Modernize (移行と最適化) フェーズのリスク対策



Migrate and Modernize（移行と最適化）フェーズの概要

大規模な移行を実施し、クラウド移行後も改善を繰り返し実施することで、成果の最大化を目指す

Migration（移行）

01 Initialize（初期化）

大規模移行に向けた準備。

- Mobilizeでの設定や運用体制が、大規模移行時にも動作するかを検証する
- 各システムの移行に向けたランブック（手順書）を作成し、検証と自動化を行う

02 Implement（実行）

- Initializeで制作したランブックを基に移行作業を実施
- 小規模な移行から始めてランブックの改善を行い、徐々に規模感を大きくする

Modernize（最適化）

01 アプリケーションの評価

- 移行後の成果を評価し、改善すべき点を洗い出す
- オンプレミス環境が残っている場合は、移行コストとメリットを再検証する

02 小規模な改善を実施

- 小規模な形で、AWSプラットフォームの改善やプロダクトのリリースを実施

03 改善のスケール化

- 改善指標を見ながら、残りの部分も順次改善を適用

Migrate and Modernize（移行と最適化）フェーズの潜在リスク

大規模な移行を実施し、クラウド移行後も改善を繰り返し実施することで、成果の最大化を目指す

Migration and Modernizeが不十分な場合のリスク例

大規模移行に向けた
想定が不十分

- 36. 移行に必要な充分なリソースが確保されていない
- 37. 移行アプリケーションごとの適切な権限が設定されていない
- 38. 不備発生時のロールバック手順が定義されていない
- 39. 移行初期の手順確認・改善期間が充分に担保されていない
- 40. 移行に必要となるツールの導入・設定に不備がある

手順書（ランブック）
の不備

- 41. ポートフォリオ評価に定量的な根拠が設定されていない
- 42. サーバ移行における具体的なコマンドや疎通確認手段の不備
- 43. バックアップ手順やファイル保管場所が一元化されていない
- 44. 移行時のスケーリング（ストレージ要領）が考慮されていない
- 45. 移行テストの具体的な要件が定義されていない
- 46. テスト回数が少なく、十分な検証と自動化がなされていない

移行後の評価
・改善体制の不備

- 47. 移行後のアーキテクチャの最適化が検討されていない
- 48. リードタイム等、移行後の改善目標の基準が未定義
- 49. レイテンシやI/O特性などクラウド固有の特性を把握していない
- 50. クラウドの利点を生かす設計（イベント駆動、ドメイン駆動設計等）がロードマップ化されていない

移行時間
の増大

手戻りの
増加

投資対効果
の低下



Migrate and Modernize（移行と最適化）フェーズのリスク対策

移行や改善にあたり必要となる手順書（ランブック）を整備し、スムーズな移行を完了できるようにする

01 ポートフォリオランブック

移行対象の選定と計画（Wave）
の設計・管理を行う手順書

メタデータ管理

- ・収集対象項目（サーバー/アプリ情報、依存関係）の定義
- ・収集ツール・プロセス・担当者の定義
- ・メタデータ保管場所（CMDB、管理シート等）と更新手順

アプリケーション評価・移行戦略

- ・ビジネス価値・技術リスク等の評価基準
- ・移行戦略（7R）の判断基準・プロセス
- ・アプリケーションごとの評価結果と選択された戦略

Wave（移行スケジュール）計画

- ・移行優先順位の基準
- ・Waveの定義（グルーピング基準、対象数、期間）
- ・Wave計画の承認プロセス

02 マイグレーションランブック

サーバ・アプリケーションの移行の手順書
移行予定のシステムごとに用意される

移行前の確認事項

- ・ターゲット環境設定
- ・移行ツール設定
- ・移行元/移行先での事前チェック項目

移行手順

- ・データレプリケーション開始・監視手順
- ・カットオーバー（切り替え）手順
- ・移行ツールの具体的な操作手順

移行後の作業

- ・サーバ起動・OS設定の手順
- ・ネットワーク疎通確認
- ・アプリケーション基本動作確認
- ・モニタリング・バックアップ設定手順
- ・基本動作確認の手順
- ・切り戻しの判断基準と手順
- ・エラーハンドリング

03 モダナイゼーションランブック

アプリケーションを近代化するための詳細手順
(例: コンテナ化、サーバレス化)

基本計画

- ・対象アプリケーション/コンポーネント
- ・Modernization戦略/パターン（選択理由）
- ・目標アーキテクチャ図
- ・前提条件・依存関係
- ・リスク分析と対応策
- ・切り戻し/フォールバック戦略

コンテナ化（例）

- ・Dockerfile作成・最適化手順
- ・コンテナイメージビルド・テスト手順
- ・コンテナリポジトリへのPush手順
- ・オーケストレーション定義（ECSタスク定義/EKSマニフェスト等）
- ・CI/CDパイプライン連携手順
- ・ログ/モニタリング設定（CloudWatch Container Insights等）

Check List

【巻末付録】リスク対策チェックリスト



Assessフェーズ 01 / 02 / 03

システム基盤の整理不足

- ツールや台帳でインベントリ（サーバー、ストレージ等）を作成したか？
- 各リソースの棚卸しを行い、基本情報（OS等）を整理したか？
- 関係部署へヒアリングし、台帳外リソースの有無を確認したか？
- 構成情報（バージョン等）の収集・記録手順は明確か？
- 構成情報の管理ツールやフォーマットは標準化・一元化されているか？
- 変更履歴（いつ、誰が、何を、なぜ）を追跡できる仕組みがあるか？
- ツールや分析でサーバー間・アプリ間の通信を把握したか？
- 関係者ヒアリングで依存関係（API、DB、ファイル連携等）を洗い出したか？
- 依存関係マップを作成し、移行計画に活用できる状態か？
- ネットワークスキャン等で管理外デバイス・ソフトを定期確認しているか？
- 各部署へ独自導入システム・ツールの有無をヒアリングしたか？
- ログ分析で不明なリソースからアクセスがないか確認したか？
- 過去の障害情報（日時、内容、原因、対応等）は一元管理されているか？
- 障害発生時の報告・記録プロセスは定義・周知されているか？
- 障害記録を分析し、傾向や問題点を把握しているか？
- 主要リソースの監視設定（項目、閾値）は適切か？
- ログ収集・分析基盤があり、必要なログを収集しているか？
- アラート通知の仕組みがあり、担当者に迅速に伝達されるか？

Assessフェーズ 01 / 02 / 03

認識やスキルのギャップ

- 開発チームへ移行計画（目的、スケジュール、影響）を説明したか？
- 開発担当者へ具体的な変更点や必要な対応を伝達したか？
- 開発チームからの質問・懸念に対応する場（窓口等）を設けたか？
- 関係者のAWSスキルレベルを評価したか？
- 必要なスキルセットを定義し、ギャップを特定したか？
- スキルギャップを埋めるトレーニング計画を策定・実行しているか？
- ビジネス目標についてビジネス部門と合意形成しているか？
- 移行に伴う業務影響をビジネス部門に説明し、協力を得られているか？
- ビジネス部門代表者をステークホルダーとし、報告・意思決定に関与してもらっているか？
- 移行後の運用体制・役割・プロセス変更を現運用チームと合意したか？
- クラウド特有の運用タスクを洗い出し担当を明確にしたか？
- 運用チーム向けのAWS運用トレーニングやドキュメント提供を計画しているか？
- 全ステークホルダー（経営層、各部門長等）を特定したか？
- 各ステークホルダーの期待・懸念・要求を把握し、計画に反映しているか？
- 定期報告会等でステークホルダー間の認識齟齬を解消する仕組みがあるか？

Assessフェーズ 01 / 02 / 03

計画の不備

- 現行オンプレミス環境のTCOを算出したか？
- 移行後のAWS利用料・運用コストを試算し、移行後TCOを算出したか？
- 定性メリットも評価し、総合的なROIを算出・評価したか？
- 現在のインフラ維持コスト（保守費、DC費用等）を詳細に把握しているか？
- 移行後のAWSコストを適切なサイジングで試算したか？
- 人件費増減等も考慮し、移行前後のコストを比較検討したか？
- CCoEに必要な役割（リーダー、アーキテクト等）を定義したか？
- 各役割に適任者をアサインし、権限と責任を明確にしたか？
- CCoEの目的、体制、ルール等が組織的に承認されているか？
- アプリケーションポートフォリオ評価を実施したか？
- 各アプリに対する移行戦略（7R）を決定したか？
- 優先順位付け基準を明確にし、移行ウェーブ計画を策定したか？
- 準拠すべき法規制、業界標準、ポリシー等を特定したか？
- 特定要件をAWS環境で満たす方針（サービス活用等）を検討したか？
- AWSアカウント構成、IAM、NW等のガバナンス設計に着手しているか？

Mobilizeフェーズ 01 / 02 / 03

計画の詳細化における抜け漏れ

- 移行チームメンバー（社内/パートナー）の必要スキル・人数を定義したか？
- 移行作業に必要な時間を見積もり、人員計画に反映したか？
- 移行期間中の通常業務との兼務体制は現実的か？
- 移行ツール実行に必要なIAM権限（Agentインストール等）を付与したか？
- 移行担当者・チームごとに必要なAWSサービスへのアクセス権限を定義・付与したか？
- アプリケーションが利用するサービス間連携に必要な権限（IAMロール等）を設定したか？
- 切り戻し判断基準（時間、エラー内容等）を明確にしたか？
- 切り戻し手順（DNS切替、データ同期停止等）を文書化し、テストしたか？
- オンプレミス環境を一定期間保持する計画か？
- 初期の少数サーバー移行（パイロット移行）を計画したか？
- パイロット移行での手順検証とランブック改善のプロセスを定義したか？
- 移行速度を段階的に上げる計画（Waveごとのサーバー数増加）になっているか？
- 移行ツール（MGN, DMS等）の前提条件（NW要件等）を確認・設定したか？
- 移行元/移行先環境へのエージェント導入手順を確認したか？
- 移行ツールのライセンスやコストを把握・計画に含めたか？

Mobilizeフェーズ 01 / 02 / 03

開発環境の不備

- 開発/検証/本番等の環境定義とリソース範囲を明確にしたか？
- データの種類、量、移行方法、タイミングを定義したか？
- データ移行時のセキュリティ要件を定義したか？
- Organizationsで目的別にアカウント分割しているか？
- 各アカウントの命名規則や役割を定義したか？
- 請求一元化とコスト配分の仕組みを検討したか？
- オンプレ-AWS間の接続方法を決定したか？
- オンプレとAWS VPCのIPアドレス範囲の重複を確認したか？
- DNSの名前解決（内部/外部、オンプレ/AWS間）設計は完了しているか？
- セキュリティグループ等で必要な通信のみ許可しているか？
- 最小権限の原則に基づき不要ポート等を解放していないか？
- 管理用アクセスに必要なポート/プロトコルを設定したか？
- コスト配分タグの設計と付与ルールを定義したか？
- AWS Budgets等による予算アラート設定を計画しているか？
- Cost Explorer等でのコスト最適化レビュープロセスを計画しているか？
- Config Rules等でコンプライアンス違反を検知する仕組みを設定したか？
- 特定リージョン利用禁止等の予防的ガードレール（SCP等）を設定したか？
- 定期的なレビュープロセスを計画しているか？
- IaCツール（CloudFormation等）の利用しているか？
- サーバー構築・設定変更等の定型作業を自動化する仕組みを検討したか？
- CI/CDパイプラインでデプロイプロセス自動化を計画したか？

Mobilizeフェーズ 01 / 02 / 03

セキュリティ・コンプライアンスの不備

- 組織全体の基準を強制するSCP（サービスコントロールポリシー）を適用したか？
- 未使用リージョン制限等の高リスク操作を禁止しているか？
- 必要な権限をブロックしていないか？
- IAMロール（EC2インスタンスプロファイル等）を優先利用しているか？
- 各ロールのIAMポリシーは最小権限で設計されているか？
- 定期的な権限の見直しプロセスを計画しているか？
- データ種類に応じて機密度レベルを定義したか？
- 機密度レベルに応じたアクセス制御、暗号化要件等を定義したか？
- Amazon Macie等による機密データ検出・分類を検討したか？
- CloudTrail等の必要なログ取得を有効にしたか？
- 法規制等に基づき、各ログの適切な保存期間（S3ライフサイクル等）を設定したか？
- ログ改ざん防止措置（CloudTrailログ整合性検証等）を講じたか？
- インシデント発生時の対応手順を定義したか？
- 定期的な脆弱性スキャンやペネトレーションテストを計画しているか？
- セキュリティ関連の変更管理プロセス（レビュー、承認等）を定義したか？
- Systems Manager等でOSパッチ適用の自動化を検討したか？
- ゴールデンイメージ（AMI）を定期更新する体制か？
- コンテナイメージの脆弱性スキャンをCI/CDパイプラインに組み込んでいるか？

Migrate and Modernizeフェーズ 01 / 02 / 03

大規模移行に向けた想定が不十分

- 各AWSサービスの課金体系（データ転送量等）を理解しコスト試算したか？
- Savings Plans等の割引オプション適用を検討・反映したか？
- 監視・バックアップ等の付随サービスコストも考慮したか？
- オンプレとAWSの並行稼働期間を特定したか？
- 並行稼働期間の二重コスト（オンプレ費用+AWS利用料）を試算したか？
- 一時的な追加コスト（NW帯域等）を考慮したか？
- 廃棄・縮小するオンプレ資産の残存簿価やリース残期間を確認したか？
- 資産除去債務や廃棄費用（物理撤去費等）をコスト計画に含めたか？
- 償却済み資産でも継続コスト（DC費用等）がないか確認したか？
- 俊敏性向上を開発リードタイム短縮率等で定量化したか？
- 可用性向上をシステム停止時間の削減目標値で示したか？
- 新サービス展開効果を売上増加額等で示したか？
- RTO（目標復旧時間）とRPO（目標復旧時点）をシステムごとに定義したか？
- DR構成ごとのコストとRTO/RPOを比較検討したか？
- 災害発生時の損失額を試算し、DR投資の妥当性を評価したか？
- 利用中ソフトウェア（OS、MW等）のサポート期限を把握しているか？
- 業界規制変更や技術トレンド変化の影響を考慮したか？
- 市場ニーズ変化等に対応する柔軟性を計画に盛り込んだか？

Migrate and Modernizeフェーズ 01 / 02 / 03

手順書（ランブック）の不備

- 各アプリの移行優先度決定基準（ビジネス価値、リスク等）が記載されているか？
- 移行計画に、定量的な根拠（依存関係、移行難易度スコア等）が反映されているか？
- 7R戦略決定の根拠（アプリ特性、コスト等）が参照可能か？
- 移行ツール操作のコマンドやパラメータを記載したか？
- 移行後のサーバー起動確認手順（OSログイン、サービス起動等）は明確か？
- ネットワーク疎通確認（Ping、特定ポートへのTelnet等）の手順を記載したか？
- 移行前の最終バックアップ取得手順は明確か？
- 移行後のAWS環境でのバックアップ設定手順（Backupサービス等）を記載したか？
- 設定ファイルやログ保管場所と命名規則は統一しているか？
- 移行先EC2インスタンスタイプやEBSサイズ/タイプの選定基準は明確か？
- データ移行時の一時的なストレージ増加を考慮しているか？
- データ増加を見込んだストレージ容量計画があるか？
- テストケース（正常系/異常系、性能）と期待結果が記載されている？
- テスト担当者、実施タイミング、合否判定基準は明確か？
- アプリケーション固有のテスト要件（特定機能の動作確認等）を含んでいるか？
- ランブックのテストと改善が実施されているか？
- 疎通確認や基本的な動作確認を自動化するスクリプト等を検討・導入したか？
- 負荷テスト等、必要な性能テストを実施する計画があるか？

Migrate and Modernizeフェーズ 01 / 02 / 03

移行後の評価・改善体制の不備

- AWS Well-Architectedレビューを定期的に実施し、改善アクションを追跡・管理しているか？
- 技術的負債を可視化し返済する計画とプロセスはあるか？
- メトリクス（リードタイム、デプロイ頻度等）の収集・可視化は自動化されているか？
- 収集したメトリクスに基づき、改善施策の優先順位付けを行う判断基準はあるか？
- インフラ構成変更（スケール変更、インスタンスタイプ変更等）が性能に与える影響を事前に検証するプロセスはあるか？
- アプリケーション間の通信要件に基づき、VPCピアリング、PrivateLink、Transit Gateway等のネットワーク構成は最適化されているか？
- 利用するデータベースの特性（例：RDSの接続数上限、DynamoDBのR/Wキャパシティ）を考慮したアプリケーション設計やクエリチューニングが行われているか？
- CloudWatch Metrics/Logs/Alarms、X-Ray等の監視ツールを効果的に活用し、性能ボトルネックを特定・分析するスキルがチームにあるか？
- モノリシックな部分を段階的にクラウドネイティブへ移行するための具体的な戦略はあるか？
- マイクロサービス間の通信プロトコル（REST, gRPC, メッセージング等）やデータ連携方式の選定基準は明確か？
- イベント駆動アーキテクチャにおけるイベントスキーマ管理、幂等性担保、エラーハンドリングの方針は定義されているか？
- ドメイン駆動設計（DDD）に基づき、ビジネスドメインの分析と境界付けられたコンテキストの定義は行われているか？
- サーバーレス技術を適用可能な箇所を特定し、積極的に活用を検討する機会はあるか？
- インフラ構成（IaC）やCI/CDパイプラインも、アプリケーションの進化に合わせて継続的に改善されているか？

チェックリスト付！

AWS開発/移行前に 知っておきたい 50のリスク

提供

株式会社テクノプロ（英文表記：TechnoPro, Inc.）

事業概要

機械、電気、電子、組込制御、情報システム、情報インフラ、
プラントエンジニアリング、化学、バイオ、医薬、新素材など
各種技術分野における研究開発や商品開発などの技術サービス
を提供

AWS開発/移行は テクノプロにお任せください

業界知識が経験豊富なメンバーが、
貴社の最適なプランニングと実装を支援します。

ご相談・お見積はこちら

